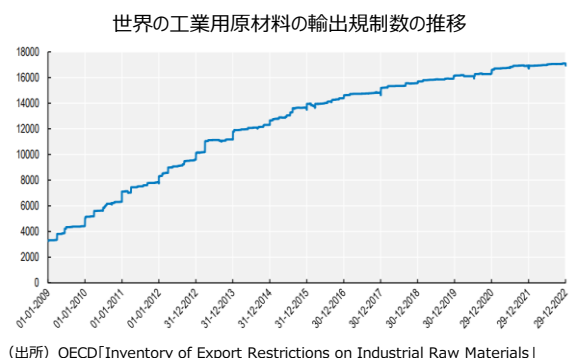


世界で増加する工業用原材料の輸出規制

◆OECDが世界の工業用原材料の輸出規制に関する報告書を発表

2024年9月、OECD（経済協力開発機構）は、世界の工業用原材料の輸出規制の状況を調査した報告書「Inventory of Export Restrictions on Industrial Raw Materials」を発表した。これによると、22年の世界の輸出規制数は約17,000件と、09年から5～6倍に増加している。国別にみると、中国が最多で全体の約20%、次いでインドが約19%となっており、この2国で全体の4割を占めている。

原材料別にみると、最多は廃棄物・スクラップ品で、資源の有効活用を意図した輸出規制が多いとOECDは分析している。次いで多いのが鉱物資源であり、こちらは国内の産業育成の名目が多いとしている。



◆WTOは輸出の数量規制を禁止も、多くの例外規定

直近の輸出規制では、9月に中国がアンチモンの輸出を許可制にした例がある。アンチモンは半導体や蓄電池などに使用される鉱物資源であり、輸出規制の理由として、中国政府は「国家の安全と利益を守るため」としている。中国は23年8月には、半導体に使用されるガリウムとゲルマニウム、12月にはリチウムイオン電池に使用される黒鉛の輸出規制を実施している。中国のこうした輸出規制の背景としては、米国による半導体輸出規制への対抗措置との見方が一般的だ。

WTO（世界貿易機関）では、原則として輸出の数量規制を禁止しているが、国内での不可欠物資不足や安全保障上の理由などでの輸出規制は認めるなど、多くの例外規定があり、恣意的に理由を設定できる面がある。不服がある場合は、輸入国はWTOで紛争解決手続きを進めることができるが、最終的な解決に至るまで時間を要する。例えば、10年に問題化した中国のレアアース輸出規制については、WTO協定違反との裁定が下り、実際に規制が撤廃されたのは14年であった。

WTOの機能不全が指摘される中、世界的に増加する輸出規制に対応するため、企業はサプライチェーンの多様化を加速する必要があるようだ。 【今村弘史】